

平成31年度

三田市予算編成（予算・施策等）に関する提案

平成30年11月

多宮 健二

平成31年度予算編成（予算・施策）に関する提案趣旨

今、三田市は荒波の中、灯台の明かりを探し求める船だと感じています。船体は傷つき、沈没を防ぐ為に荷物を捨てるも、行き先が定まらない航海のため、客員をはじめ、船員も疲弊の色が強まり、いつ難破船となるか分からない状況ではないでしょうか。

こんな時であるからこそ、市長をはじめ、市民、職員、市幹部それぞれが将来への責任を持ち、市の結論ありきの意見交換ではなく、多様な方々の意見に耳を傾け、議論を交わし、しっかりとした根拠を基に、三田市の行くべき道、明確な将来ビジョンを定めるべきだと考えます。

どのような三田市を、子供達に引き継いで行くのか、議員の責任も重大なものと感じております。

そんな思いの中、平成31年度予算編成（予算・施策）に関する提案をさせていただきます。

提案

○地域の包括的な維持管理の構築

農村部をはじめ、ニュータウンにおいても少子高齢化の為、市より求められる奉仕活動等の継続が困難になり始めています。このままでは近い将来、景観などの維持が出来ないことになると考えられます。

マンションの管理組合のように、戸建て住宅地域においても、企業などの民間活力による組織形成及び事業化。

(例 包括的ごみ収集委託＋植栽管理＋目視による簡易な道路点検＋住民送迎サービスなどの組合せでの事業化)

○学校給食調理の自校方式採用

現在、学校園の統廃合が議論されていますが、新たな学区の枠組みが定められる時に、災害時における食料の提供など、危機管理の観点を持つ自校方式の再検討。

且つ、有償で行う高齢者向けの配食サービス事業の検討など、自校方式に付加価値を加えての事業を行う。

○市内におけるプログラミング教育の普及促進

IT 業界はめまぐるしい成長を遂げ、今尚その可能性は大きいものである。

これからの子供達には、各分野において IT 化が進む中、必須の教育であり、PC の操作はもちろんのこと、論理力が求められています。

教育現場におけるプログラミング教育では事足りず、三田市内でも民間によるプログラミング教室が必要と考えます。

そこで、民間企業によるプログラミング教室開設への助成もしくは学生による教室運営への助成などの検討及び事業化。

○陸上養殖の調査・研究及び事業化

現在、他県他市の山間部において、サーモンや海老、またはフグなどの養殖が行われています。

三田市でも陸上養殖は可能と考えます。

新たな産業、三田市の新たなブランドの確立として調査・研究を求めます。

その上で、事業者の募集を行い、事業定着までの助成。

(例えば、三田の由来である三福田から、福とフグをつなぎりとしてフグの養殖事業など。)

○庁舎内における窓口業務委託

事務処理手続きが比較的簡易で、定まった順序で処理を行えば支障のない窓口業務においては、民間活力で行う。

職員については、業務過多の課へ配置し、多忙な職員の負担軽減を図る。

(新規採用を業務過多の課へ配置しても、すぐには独り立ちできず、指導する時間も十分に取れないので、職員として経験値のある人材を配置することで軽減を図ることができる。)

要望

○塵芥車及び運転兼操作作業員の派遣

自治会や学校園 PTA など、本来であれば市が行うべき道路や公園及び学校園の植栽手入れや除草作業、また清掃作業時におけるの塵芥車派遣。

派遣が行われれば、地域の負担軽減につながることから、参加しやすい環境となるのではないかと。

○現業職場の今後のあり方の明確化

現業職場においては、長らく新規採用が行われていません。

しかしながら、業務は継続されており、将来、どのように事業を維持するのかわかりません。

新規採用のない現場における職員の平均年齢は、上がるばかりです。

民間に移行していく方針なら、その計画及びスケジュールを提示するべきであり、直営を維持していくのであれば新規採用を再開するべきだと考えます。

今、民間の各分野においても人材の確保が困難とされ、現業職場では民間の場合、賃金の低さから、なおのこと人材確保の困難さが顕著になると考えます。

先の提案のように、将来を見越した業務付加価値や複合化も含め、早期にその方針を定めるべきだと考えますので、ご検討願います。

○将来見越した地域医療の確立と住民投票の検討

三田市民病院の今後について議論されているが、現在の負担額を上回る額が見込まれた場合、どうするのか。

また、現在の負担額のいくらまでなら大丈夫なのか。

行財政改革を行う三田市にとって、現在の負担額は非常に大きなもので、医師確保の為に病院規模を拡大することは理解するが、20年、30年後に現在と同様の状況にならないか、慎重な議論が必要である。

については三田市内での病院維持が理想だが、莫大な費用がかかるのであれば、そこに固執するのではなく、進めるべきだと考える。

ただし、三田市から新たな病院までの交通手段（病院までの直通バスなど）は整備しなくてはならない。

この事は三田市民にとって重要な問題である為、超過課税を行なっても三田市内で維持するのか、救急部門のみを三田市内に設置するなど、いくつかの選択肢を提示し、住民投票において決するべきものと考えますのでご検討願います。

○循環型農業の普及促進及び助成強化

これまで、害虫駆除などを理由に野焼きが行われて来ました。

しかし、野焼きによる効果も研究され、その野焼き行為全てが、必ずしも効果のある作業とは言えなくなり、平成13年には法律も改正され、環境保全の目的が強化されました。

また、野焼きの煙に含まれる物質について、環境省も各自治体に通達されています。

このような事から、法律の趣旨及び野焼きの煙が人体に影響を与える可能性などを農業従事者へ掲示・説明を行い、循環型農業への促進を行政として行うべきだと考えます。

現状の三田市の示す法解釈の下で、野焼きを行う農業従事者は、周りの環境によって、検挙される可能性が高いものと考えます。

については、法解釈の正しい解釈と運用を持って、農業従事者への理解と指導を行う間、近隣の生活環境に十分な配慮と、野焼き作業の工夫と日時などの通知で理解を求めるなどの調整を、行政が行うべきだと考えますのでご検討願います。